



2023年11月

東武鉄道株式会社

## 2023年度第2四半期 決算説明会 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q. 上期におけるスペーシア X の収入貢献度や、グループ会社全体への波及効果はどの程度あったのか。

A. スペーシア X は本年7月に運行を開始し、概ね連日完売の状況が続いている。グループ会社とのシナジー効果として、日光エリアを拠点とする東武バス日光や明智平ロープウェイと協力しながらスペーシア X を盛り上げる取り組みを実施しており、今後も相乗効果が期待できる。また、ザ・リッツ・カールトン日光、金谷ホテルともに好調を維持しているほか、東武トップツアーズにおいてはスペーシア X とホテルを組み合わせた旅行商品を企画しており、売れ行きも順調である。

Q. 鉄道収入の通期業績予想および来期以降の見通しについて、コロナ前と比較してどの程度の減少を見込んでいるか。

A. 定期外については順調に回復しており、今後もスペーシア X 等を活用した増収施策を実施していく。定期のうち通勤については、コロナ前に比べ約15%減少で推移しており、国内でのテレワークの定着も踏まえてこの傾向が継続すると想定している。

Q. 来期は旅行業において受託業務の利益の反動減があると想像しているが、レジャー事業全体において来期の増益要因となるものはあるか。

A. 東武トップツアーズにおける自治体からの受託業務については、今後縮小が見込まれるが、コロナの終息およびインバウンド需要の回復を好機と捉えて東武グループ全体で収益を上げていく。なお、ホテル業においては、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルのリニューアルや金谷ホテルの別館改修の完了による増益が見込まれる。

Q. 池袋駅西口再開発や、日本橋（八重洲）、高架下の開発について、次期中期経営計画期間のP/Lに与える影響はそれぞれの程度と捉えればよいか。

A. 池袋駅西口再開発については、本年度末の都市計画提案を目指して準備を進めており、現時点では2027年度以降の解体工事等着手を予定している。また、日本橋については、用途を含めて詳細を検討中だが、次期中期経営計画期間の後と現時点では考えている。高架下の開発については、エキア越谷のオープンを本年12月に、新越谷ヴァリエのリニューアルを次期中期経営計画期間内で予定している。

Q. 次期中期経営計画において、ROEなど、収益性に関する財務目標を設定する予定はあるか。また、株主還元についての考え方を示す予定はあるか。

A. 次期中期経営計画においては、資本の効率性を重視したいと考えている。具体的には、配当や自己株式の取得実施による株主還元や、政策保有株式の見直し等である。株主還元については、現行の中期的な事業計画において、「早期に一株あたり40円への復配を目指すとともに、自己株式の取得による還元も検討」と掲げ、自己株式については2022年度に約60億円の取得を、配当については年間45円への予想見直しを行ったところである。株主還元については、財務健全性に配慮しつつ、業績と経営環境を踏まえながら安定的な配当を実施する事が基本方針であり、次期中期経営計画の目標値等についてはこれからの議論であるが、配当性向や総還元性向等も意識しながら整理したい。

Q. 生体認証について、今後どのタイミング、どの程度の規模感で東武グループに収益貢献していく想定なのか。

A. 生体認証については、今年度中に東武ストアで先行導入し、その後、当社グループのホテルやスポーツクラブへの展開を検討していく。本技術をどう活用できるか試しながら生体認証プラットフォームを形成していくため、まずは東武グループ施設での活用によるロールモデルの構築を第一義的に考えている。その後、プラットフォームの展開による収益化について検討していく予定である。

以 上